

# 「CMSを活用した情報発信に関する研究」

## ー インターネットを活用した危機管理体制の構築に向けて ー

教育情報推進係

### 1 調査研究の概要

県立学校のWebページのCMS（コンテンツマネジメントシステム）化に向けた操作講習会や、ぐんまスクールネットメール連絡網操作講習会など、各学校の担当者向けの支援の充実を図るとともに、インターネットを活用した危機管理体制の構築に向けた課題点等の聞き取りを行う。また、Webページの管理・運営に関する電話相談やメール連絡網の活用状況調査などを通して、各学校における実践の状況を把握する。調査を通して明らかになった課題点や解決策を集約し、「CMSによる学校Webページ作成講習会用テキスト」を作成するとともに、各学校への支援の一層の充実を図る。

※CMS（コンテンツ マネジメント システム）

素材を準備してブラウザ上で操作することでWebページ作成を行うことができるシステム

### 2 調査研究の目的

本調査研究では、インターネットを活用した危機管理体制の構築に向けて、CMSによる学校Webページ作成に必要な手順や手立て、具体的な運営の進め方など、導入支援としての操作講習会や電話相談などを通して明らかにする。これにより、県内各学校において異常気象や地震などの災害時の対応のために、地域や保護者へ正確な情報伝達を徹底するなど、学校経営のツールとしてのインターネット活用の在り方を提言する。

### 3 目的の設定理由（背景となる教育課題等）

近年、異常気象や地震への対処するために、災害に強い学校づくりの必要性が高まっている。そのための手立ての一つとして、幅広い情報通信手段の活用によって地域や保護者への情報提供体制を強化することが挙げられる。

情報通信技術の進歩と基盤整備等に伴い、インターネット利用者は急増しており、スマートフォンの利用は増加している。2014年2月のNTTコムリサーチによる調査においても、スマートフォンの所有率がほぼ5割に達し、携帯電話を上回っている。そこで、地域情報や学校情報の共有化を図る手段として、スマートフォン等を含めたインターネットの活用が有効であると考えられる。

学校において、インターネットを活用した情報発信の充実を進めるためには、まず、学校のWebページをCMSに移行し運用の効率化を図る必要がある。CMSは、専門的な知識は必要なく、利用者のスキルを問わず容易にWebページの作成・更新を行うことができるシステムである。誰でもどこからでもインターネットに接続してログインIDとパスワードを入力することで、作成・更新できるので、迅速な対応には有効なツールである。

そこで、GSN（ぐんまスクールネット）に整備したCMS環境を用いた学校Webページの作成・運用に関わる支援や相談を行うとともに、インターネットを活用した災害に強い学校づくり、危機管理体制の構築に資することを目的に本調査研究を設定した。

※GSN（ぐんまスクールネット）

総合教育センターを拠点に全ての県立学校において情報通信ネットワークを活用するためのイーサネット網

#### 4 研究期間

平成25年7月～平成27年3月

#### 5 調査の対象

県立高等学校	63校
県立中等教育学校	1校
県立特別支援学校	15校
合計	79校

#### 6 調査研究の経過

- 平成25年11月 CMSによる学校Webページ作成講習会用テキスト（管理編・作成編）を作成  
CMSによる学校Webページ作成講習会を開催
- 平成26年3月 5校が学校WebページをCMSに移行終了  
20校が「ぐんまスクールネットメール連絡網」の導入を完了
- 平成26年7月 ぐんまスクールネットメール連絡網講習会を開催（2回目）  
メール連絡網・CMSによる学校Webページについてのアンケート
- 平成26年10月 教育センターWebページをリニューアル  
※リニューアルに合わせ「緊急の連絡」ページを追加
- 平成27年1月 学校Webページの充実支援研修講座を開催
- 平成27年3月 CMSによる学校Webページ作成用テキスト（緊急連絡ページ作成編）を作成  
災害に強い学校づくりの推進に向けたインターネット環境活用促進資料の作成  
※テキストおよび資料は平成27年4月に県立学校へメールで配信予定  
7校が学校WebページをCMSに移行（合計12校）  
5校が緊急連絡用ページをCMSで作成（学校Webページからのリンクページ）  
27校が「ぐんまスクールネットメール連絡網」の導入を完了（合計47校）

#### 参考：平成24年度 of 取組

- 平成24年9月 ぐんまスクールネット新システムの稼働開始  
※CMSによるWebページシステム（ネットコモンズ）を導入  
※メール連絡網（センターサーバ方式）を導入
- 平成24年10月 ぐんまスクールネットメール連絡網講習会を開催（1回目）

#### 7 調査の概要

##### (1) CMSによるWebページ作成と活用

CMSを利用することで、ページの作成を簡単に行うことができる。しかし、各ページ（ルーム）やモジュールには作成・更新などの権限を設定でき、その管理が必要になる。そのため、テキストを「作成編」と「管理者編」に分けて作成することにした。



図1 テキスト（管理編、作成編）

## ①CMSによる学校Webページ作成講習会

平成25年11月に3日間に分けて、全ての県立学校を対象に講習会を開催した。

各学校の担当者は、各学校のURL（CMS）、管理者ID・パスワードを利用して、実際にページを操作してもらった。講習の前半はユーザー管理、後半にはページの作成を行った。

また、緊急連絡時の活用方法について、「お知らせページ」の作成時に説明を行った。

図2 ユーザー管理画面

図3 ページ作成画面

## ○アンケート（自由記述）

- ・初めは時間がかかるかと思うが、CMSを導入し、活用できたら良いと思う。
- ・ホームページビルダーよりも、簡単にホームページを作成できると思う。パソコンに詳しくない先生にも説明しやすく、一部の先生に偏っていたホームページの更新について分業できる。
- ・管理者も分けて運用できるのは、とても良いと思う。今年度から準備を進めて、来年度ははじめから使えるように考えてみようと思う。
- ・来年度以降も希望する学校の講習会を設定してほしい（複数名の参加もお願いしたい）。
- ・いくつかのステップに分けて講習会を開いていただけるとありがたい。
- ・現在のWebページ（HTML）との併用の方法なども知りたい。

実際に操作することで、CMSの利点を実感し、今後の講習会開催を希望するなど、前向きに捉えている参加者が多く見られた。

## ②CMSの利用アンケート実施（平成26年7月）※回答79校

平成25年度末は2校が利用していたが、アンケート時には3校増え、5校となっている。また、構築中、検討中の学校が23校あり、今後利用が増えていくと考えられる。

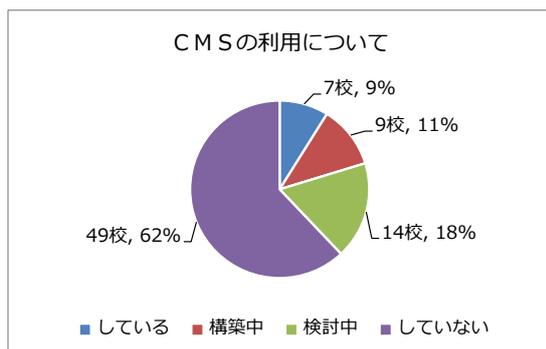


図4 CMS利用アンケート

### ○利用しない理由

- ・他のソフトに慣れている
- ・構築の作業時間が確保できない
- ・担当する職員が不足している
- ・時間がなく、技術的にも不安がある
- ・負担感がある
- ・ページに自由度がない

### ③CMSに移行した学校

平成25年度末に2校、平成26年度末に10校（合計12校）が移行を終えた。

また、この他の5校が緊急連絡専用のページのみをCMSで作成した。既存のWebページからリンクをさせて、緊急連絡時に自宅などから更新を行っている。

移行した学校からは、主に次のような問い合わせがあった。ページ作成のための基本操作についての問い合わせではなく、接続トラブルや管理方法についての内容がほとんどだった。

- ・ぐんまスクールネット網内（学校内）からの接続トラブル（プロキシサーバの例外設定）
- ・起案ページの作成方法
- ・ユーザー管理可能なモジュールの管理方法
- ・保護者用ページの作成・管理方法
- ・ブラウザのバージョンによる接続トラブル

## (2) ぐんまスクールネットメール連絡網の利用

県立学校では、数校が学校単位でメール連絡網を利用していた（平成24年度）。ぐんまスクールネットでは、平成24年9月の新システム稼働に合わせて、教育センターにメール連絡網機能を持ったサーバを置き、全ての県立学校でメール連絡網システムを利用できるようになった。

### ①ぐんまスクールネットメール連絡網講習会

平成24年10月、第1回目の講習会を開催した。

各学校の担当者には、各学校の管理者ID・パスワードを利用して、実際を操作してもらった。講習の前半は初期設定、所属作成、メンバー作成・登録、後半にはメール作成・配信、年次更新の操作を行った。



図5 初期設定画面



図6 メッセージの作成・送信画面

講習会後は、教育情報推進係がヘルプデスクの役割を担い、学校からの問い合わせに対応をした。

災害（台風や大雪）後に利用する学校が増えていき、平成25年度末に28校が利用をしている。

学校からの問い合わせ内容や要望は随時、プログラムの提供業者に伝えた。新バージョンにはその要望を新機能として盛り込むことができ、その機能を説明するために、平成26年7月、第2回目の講習会を開催した。

旧バージョンに比べ、利用しやすくなったことや学校の危機管理意識が高まったこともあり、平成26年度末には利用校が19校増え、47校となった。

②メール連絡網の利用アンケート実施（平成26年7月）※回答79校

平成25年度末は28校が利用していたが、アンケート時には5校増え、33校となっている。また、検討中と答えた15校のうち、4校は外部のメール連絡網を有料で利用している学校だった。

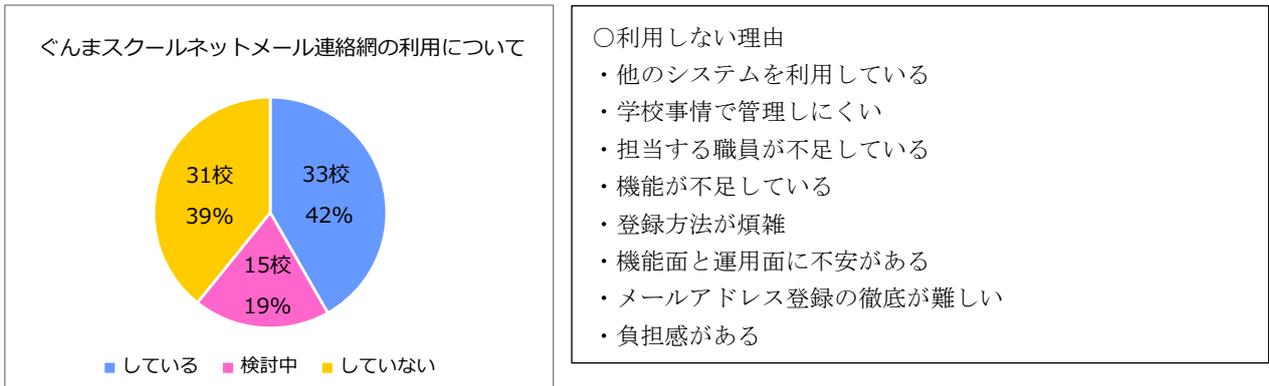


図7 メール連絡網アンケート

8 結果と考察

- ・台風や大雪の後に、CMSやメール連絡網の問い合わせが多く、危機管理体制の構築にこれらのサービスが必要であると多くの学校が捉えていることがわかった。県立学校全体を対象とした講習会だけでなく、導入を希望する学校単位に研修会を行うなど、直接の支援を行う必要があると考える。
- ・各学校のWebページに、緊急連絡ページを設ける学校が増えている。緊急連絡時の対応は、自宅などから更新できるCMSに利便性がある。また、CMSは携帯電話用のページが自動的に作成されることから、最新の情報を迅速かつ正確に伝えることができる。これまでに配布している、学校Webページ作成テキスト「管理編・作成編」に加え、「緊急連絡ページの作成編」(図8)を各学校に配布し、各学校の保護者や生徒の閲覧環境に配慮したWebページ作成の支援が必要であると考えます。
- ・各学校における危機管理体制の構築のためには、「CMSによるWebページ」と「メール連絡網」を組み合わせた活用が望ましい。ネット環境活用促進資料(図9)を各学校に配布し、児童生徒の安心安全な学校づくりや危機管理体制の構築に向け、継続した支援が必要であると考えます。



図8 緊急連絡ページの作成編



図9 ネット環境活用促進資料